

《 賛助会員からひとこと 》

各メーカー様に順次ご寄稿を頂き、シリーズとして掲載しています。
今回は日華油脂㈱様にご寄稿いただきました。

最近の油脂原料事情について

日華油脂株式会社
東京支店長 杉本高史

執筆時期の食用油原料の動向は、天候相場の展開で、米国大豆相場は一時期の高温乾燥状況からは、天候改善で落ち着いた展開となっています。カナダ菜種相場は依然として堅調な需要予測に支えられ、強含みの展開が続いています。

国内製油メーカー各社の第一四半期実績が発表されていますが、各社共に製油収益の悪化が明らかになっており、搾油環境に厳しさが増えています。搾油コストに見合った適正価格への早期是正が大きな課題となっています。

1:大豆油

1-1:シカゴ大豆相場



作付遅延懸念から春先は堅調に推移しましたが、5月中旬以降は天候の回復を受けて軟調推移となりました。6月下旬以降は、米国の大豆産地の天候が高温・乾燥型となり、作柄悪化懸念が高まったことから急騰を見せました。7月に入ると、期近限月で10ドルを突破するまで上昇しましたが、7月下旬以降は気温が低めに推移し、概ね降雨に恵まれたことから再び下落に転じました。8月の米国農務省の需給報告で、単収が事前予想に反する形で上方修正されると、相場は更に下落することになりましたが、依然として減産懸念が残ることや、下値では中国の買いが活発に入ることから、再び反発の兆しが出ております。

1-2: 米国農務省発表の8月の需給報告

◇米国大豆(16/17年度)

輸出需要が堅調なことから期末在庫率は8.9%まで低下しています。

◇米国大豆(17/18年度)

単収は昨年を下回るものの、作付面積の増加から生産量は前年を上回る予想となっています。期末在庫率は11.0%と予想されていますが、単収予想が過大との見方もあり、次月以降の修正に注意が必要な状況となっております。

◇世界大豆(16/17年度)

南米は豊作が見込まれています。ブラジルで114.0百万トン、アルゼンチンで57.8百万トンの生産量が予想されています。

中国の輸入量は91百万トンと予想されています。

◇世界大豆(17/18年度)

中国の輸入量は94百万トンまで増加すると予想されています。

米国大豆需給バランス

	単位: 百万bu		
	2015/16	2016/17 (推定)	2017/18 (予想)
期初在庫	191	197	370
生産	3,926	4,307	4,381
輸入	24	25	25
総供給	4,140	4,528	4,777
国内搾油	1,886	1,890	1,940
輸出	1,942	2,150	2,225
種子、他	115	118	136
総需要	3,944	4,158	4,301
期末在庫	197	370	475
在庫比率	5.0%	8.9%	11.0%

世界の大豆生産量 米国農務省(2017年8月10日発表) 単位: 1,000M/T

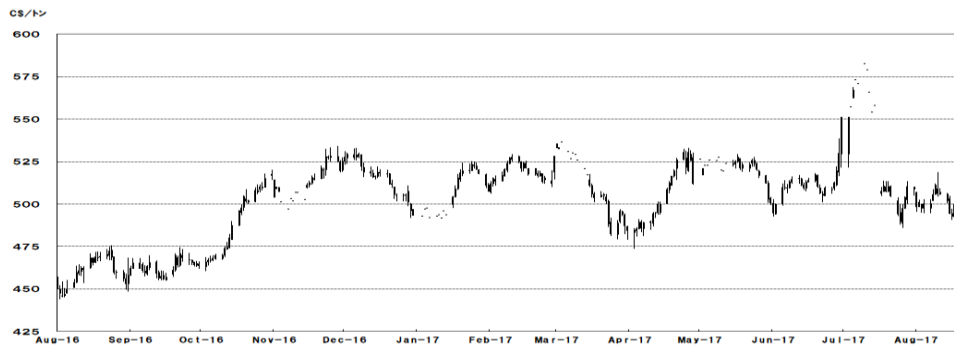
	2015/16	2016/17 (推定)	2017/18 (予想)
アメリカ	106,857	117,208	119,233
ブラジル	96,500	114,000	107,000
アルゼンチン	56,800	57,800	57,000
中国	11,785	12,900	14,000
インド	6,929	11,500	10,000
パラグアイ	9,217	10,665	9,400
カナダ	6,371	6,550	8,200
その他	18,415	21,119	22,527
合計	312,874	351,742	347,360

1-3: 今後の見方

引き続き収穫期に向けて天候が材料の中心となります。産地北西部など土壌水分が不足している地域は未だ多く、作柄は昨年比大幅に悪いと予想されています。今後、乾燥型の天候が続くようであれば、相場は再び急騰する可能性が高く、注意が必要な状況です。また、中国は高水準の輸入ペースを継続しており、現在の状況が続くようであれば、需要面からも相場は底堅く推移するものと予想されます。

2: 菜種油

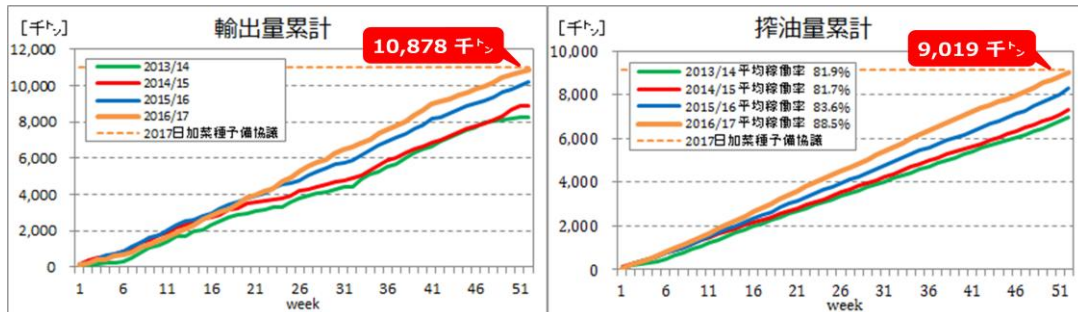
2-1: ウィニペグ菜種相場 期近限月



4月頃より輸出および搾油需要の好調さから旧穀のタイト感が囁かれはじめ、これまでの下落傾向から反転しました。この時期、産地は降雨により土壌水分過多となり、通常4月中～下旬より開始となる作付が遅れた事も更に相場を押し上げる要因となりました。その後はシカゴ大豆相場の下落に連動する形で菜種相場も値を下げましたが、ファンドによる安値圏での買い増しや高値圏での利食い売りもあり上下を繰り返す展開となりました。6月限より旧穀在庫のタイト感が強まる中で高温乾燥懸念により急騰し、更にカナダドル高進行により値を伸ばしました。7月中旬以降は高温乾燥により作物がヒートストレスを受けて作柄が悪化すると見方と降雨と気温低下による作柄改善期待が入り混じり、方向感のない展開が続いております。

2-2: カナダの菜種需給

旧穀は輸出量は1,000万トンを超え(前年比107%)、搾油量は900万トン(前年比110%)の高水準の着地となりました。



2-3: カナダ菜種需給予測

カナダ農務省と民間輸出業者の見方は割れていますが、高温乾燥による作柄悪化懸念により2017/18年クロープの単収は前年を下回るものと見られております。一方で、作付面積は過去最高の見通しであり生産量は1,900～2,000万トンになるとの見方が大勢です。しかし、需要は堅調に推移する見通しであり、期末在庫は低水準になるものと思われれます。

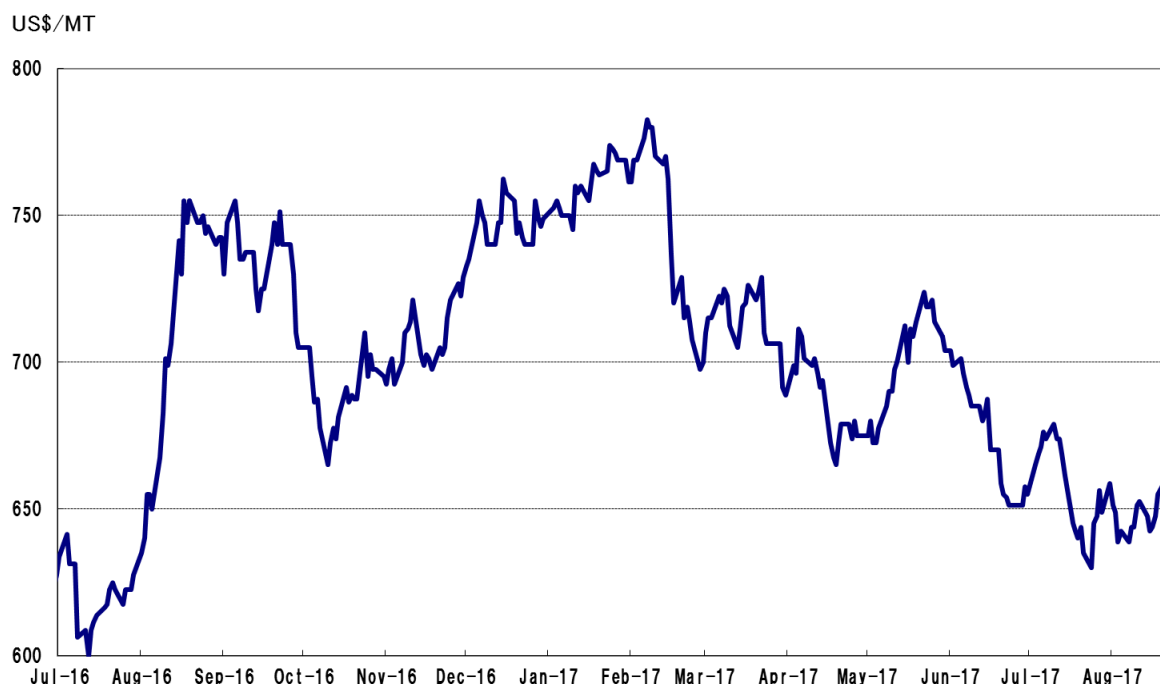
	2015/16	2016/17(F)	2017/18(F)	2016/17	2017/18(F)
作付面積(千acre)	20,665	20,366	22,837	20,631	22,007
収穫面積(千acre)	20,564	19,197	22,612	20,276	21,732
単収(bu/acre)	39.44	42.29	37.12	43.20	41.60
供給量(千ト)	21,055	20,539	19,700	22,212	22,450
期初在庫	950	2,016	600	2,278	1,875
生産量	18,377	18,424	19,000	19,886	20,504
輸入量	105	100	100	69	71
需要量(千ト)	18,979	19,888	19,349	20,337	20,394
輸出量	10,299	10,500	10,300	10,969	10,937
搾油量	8,315	9,000	9,000	9,112	9,201
飼料等	365	388	49	256	256
期末在庫(千ト)	2,016	600	300	1,875	2,056
在庫率	10.6%	3.0%	1.6%	9.2%	10.1%

(Agriculture and Agri-Food Canada)

(日加菜種予備協議)

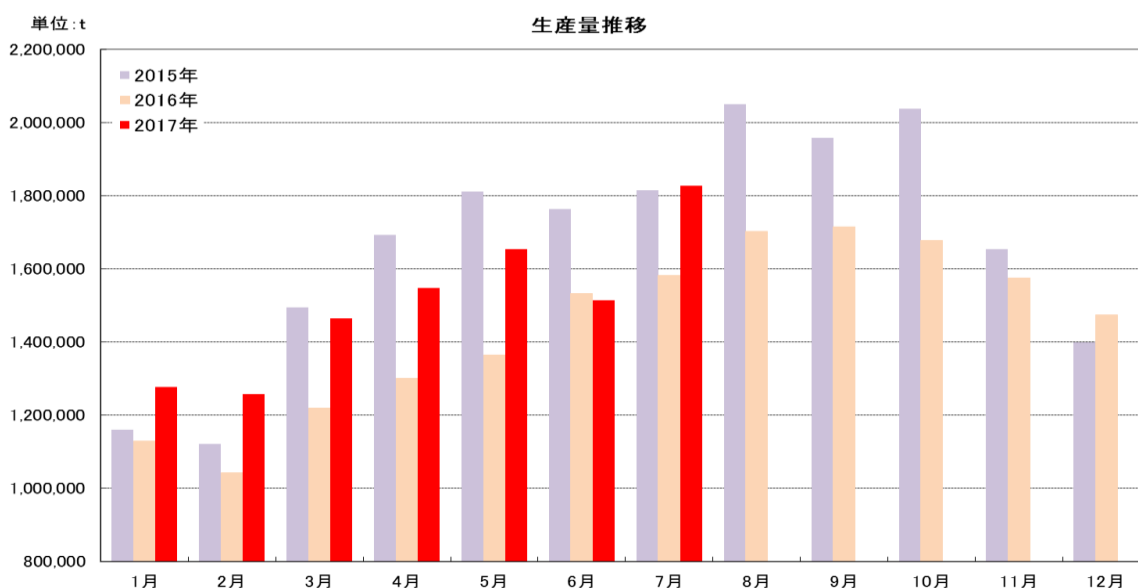
3:パーム油

3-1:RBD パーム油相場推移 (US\$建)



2015年に発生したエルニーニョ現象の影響によるパームの減産が2016年末まで続いたことから、RBDパーム油相場は700ドル/MTを超えていましたが、本格的な生産回復から6月以降700ドル/MTを割り込み、シカゴ大豆油と比較して50~100ドル/MTのディスカウントとパーム油の割安感が出ています。

3-2:マレーシア パーム油生産量



マレーシアのパーム油生産は2015年のエルニーニョ現象の影響から、2016年は毎月前年を下回る生産が続いていましたが、2017年以降前年を上回る生産となっている。今後も10~11月頃までは生産数量が大きく伸びることが想定されるため、マレーシアのパーム油在庫も積みあがっていくものと思われます。